

# 令和7年度 第1回 地域連携推進会議録

日 時：令和7年11月27日（木）17:00～19:30

場 所：多機能型事業所 四万十工房（別棟）

参加者：《地域連携推進員》

石川和男（利用者） 吉岡三千子（利用者家族） 中山 崇（区長）

新谷 聖（四万十市福祉事務所） 田口晋平（四万十市社会福祉協議会）

《事務局：共同生活援助事業所ぼっちり村》

大崎太郎（管理者） 山本さゆり（サービス管理責任者）

大野みさき（事務兼生活支援員）

## 【次第】

### 1 開会

事務局の大崎より挨拶。

### 2 地域連携推進員及び事務局員の自己紹介

席順に自己紹介を行う。

### 3 地域連携推進員の委嘱状交付

各委員に大崎が交付する。

### 4 共同生活援助事業所ぼっちり村地域連携推進会議設置要綱の確認

資料1を参照。

### 5 会長及び副会長の指名

会 長：田口晋平氏

副会長：新谷 聖氏

### 6 令和7年度共同生活援助事業所ぼっちり村の取組についての説明

資料2を参照。

### 7 共同生活援助事業所ぼっちり村の施設・整備等の紹介

資料3を参照。

- ・ 共同生活援助事業とは
- ・ ホーム数及び利用者数
- ・ 職員配置及び職種、職員数
- ・ 健康管理、防災訓練
- ・ 年間のイベント、行事
- ・ 各ホーム建物及び設備等を写真で紹介
- ・ 食事等の生活の様子を写真で紹介

## 8 各ホームの巡回

全6ホームを巡回して、共有スペースの見学や了承が得られた利用者については居室の様子も見てもらった。

## 9 質問・意見交換

大崎「資料4を見てください。ホーム訪問の際の視点・ポイント、利用者への質問例などが記されていますが、こういった視点でご意見をいただけたら嬉しいです。」

Q.「グループホームの普段の職員体制は？」

A.「世話人及び生活支援員が、朝は6:00又は6:15から利用者が出かけるまでの8:40くらいまでの時間帯に食事等の生活面での支援を行う。また夜間は利用者が帰って来る前の16:00から20:00まで同様の支援を行う。夜間支援員がそれと重なるように19:15から出勤してもらって、翌朝の6:15までの勤務となっている。夜間支援員の巡回時間も決めて、利用者の方に異変があれば夜間も対応できるようにしている。」

※世話人と生活支援員の業務についての説明も行った。

Q.「地域との接点という話もあったが、日頃そういった取り組みはしているの？」

A.「ぼっちり村としては、地域一斉の側溝清掃に参加する程度。」

推進員「地域としての防災訓練や祭りもない。コロナがあって以降、益々そういった機会が減った。」

推進員「災害時に『ここにはこんな人が住んでいる』って顔を知ってもらっているだけでも違うので、今後はそういった取り組みをしていってはどうだろう。」

事務局「ぼっちり村の岩田にあるホームの利用者は、ほとんどが四万十工房の利用者であり、四万十工房を通じて交流を図っていかれたらと思っている。例えば地域の方を招いての交流会の実施など。今後はこの交流会を継続させ地域の方がより多く参加してもらえそうな内容にしていきたい。また防災訓練やカラオケ大会、行事で調理を一緒にしてみるとかどうかと考えている。」

推進員「ぼっちり村は避難訓練を結構やっているようだが、岩田地区としての訓練は難しい。先日、中村地区の一斉訓練に参加したが、その内容もマンネリ化していると感じた。そんな中、森岡木材で火災が発生して人は集まっていたものの、行動できる人がほぼいなかった。発災時に実際に動けるような訓練をしたい。また、この地区は土砂災害警戒区域にもなっているが、避難場所等の課題がある。」

推進員「右山にあるこだま荘の避難場所は、中村南小学校になっている。」

推進員「ここ（岩田）は津波の心配は？」

事務局「その心配はあまりしなくていいと思います。」

Q.「ぼっち村と四万十工房との違いは？」

A.「近年の障害者福祉において、生活の場（夜間）と日中の場（昼間）を分けるという考え方で制度設計がされてきた。私たち岩田の事業所でいうと、ぼっち村が生活の場、四万十工房が日中活動の場となっている。」

※四万十工房の中には、仕事（作業）に取り組むところ、創作活動や体力づくり、レクリエーションを楽しむところの二つがあることを説明。また、ぼっち村の利用者の中には、この四万十工房を利用する方の他に、一般就労されている方もいることを説明した。

Q.「ホーム内の掃除とかは利用者さんが行っているの？」

A.「各ホームの違いはあるが、利用者さんが当番制でできるところは掃除をしている。行き届かないところは世話人や日中に配置している生活支援員が行っている。特に感染防止の消毒などは職員の業務として行っている。」

※数名の推進員から「水回りなど、どのホームも綺麗にしていると思った。」との感想が聞かれた。

Q.「夕食が終わったら、居室で過ごす方が多いの？」

A.「そうですね。いろいろですが、先ほど見てもらったように世話人が片づけをしているリビングでお菓子を食べて寛ぐ方もいれば、居室で過ごす方もいる。見てもらった女性のホームでは、今日は居室にいたが、普段は世話人が帰るまでリビングで過ごしている方もいる。」

Q.「夜間、夕食後に買い物に出ることはあるの？」

A.「岩田のホームの方は、地域的に街灯も少なく暗くて危険だし、お店も遠いこともあり、基本的に夜間は買い物等に出ることはない。土・日曜日の休みの日の日中に買い物は済ませてもらっている。市内のホームの方も出る機会は少ないと思うが、一般就労している方が多く、仕事で帰りが遅くなったりするときに買い物することもあるようだ。他には休みの日に、宿毛や高知に車で買い物に行ったり、映画を観に行ったりして楽しんでいる方もいる。」

推進員「どのホームも綺麗にしていると思った。自分は高齢者のグループホームとかを見学する機会があるが、階段が急だと感じた。」

推進員「そもそもグループホームとして建てられたであろう建物の玄関や階段には、手すりが最初から付けられているのだろう。そうでない賃貸物件は普通の住宅に少し手を加えて使用しているといった感じ。ただ利用者が高齢になっていくと生活が困難になっていくことが予測される。介護保険サービスへの移行も必要になって来るかも。」

推進員「どのホームも綺麗だと感じた。いろんなホームを見ることができて良かった。」

推進員「まずは職員の方に感謝。和気あいあいとしていい雰囲気を感じた。信頼感があるなと思った。また施設としては食堂とか使いやすい造りであったり、居室もかなり広くて利用者さんにとっては住みやすい場所になっていると思った。それから玄関には災害時の連絡先とか分かるものがあったり、火災報知器が整えられていたり、A E Dが設置されていたりして、非常時の備えがされていることに感心した。

推進員「初めて見るホームもあり、そんなホームに入って見ることで良かった。」

#### <意見のまとめ>

- ・水回りなど、どのホームも綺麗にしている。
- ・食事後のリビングでの世話人と利用者との様子を見ると、アットホームな感じ、信頼感があると思った。
- ・利用者の居室も広々としていて過ごしやすそう。
- ・災害時の備えができていたり、避難訓練も年数回していて関心した。
- ・岩田地区として避難訓練をしていないので、今後は発災時に実際に動けるようにしていきたい。お互いの協力体制が組めるよう日頃からの交流が必要。
- ・ホームの設備については、階段が急こう配であったことが気になった。手すりは設置されているものの利用者が高齢になった時が心配。

#### 11 その他

推進員「今日もらった施設等の紹介で使った資料3を地区の回覧板につけて回覧すれば、事業所のこと、そこに住む利用者のことも地域の方に知ってもらえるのでは。自分も含め地域の方は、知らないことばかりなので。」

事務局「今回の資料は個人写真を掲載しているので、個人情報の取り扱いの観点から、そのままを回覧してもらうということは難しい。手続きを踏んで回覧・紹介してもらえるものつくるので、そのときお願いしたい。」

#### 12 閉会の挨拶（田口会長）